

令和7年度 事業報告書

社会福祉法人 希桜会

■ 軽費老人ホーム

「ケアハウス サニー秋桜」

■ 地域密着型介護老人福祉施設

「きさらぎ荘」 「みやのぎ荘」

■ 小規模多機能型居宅介護事業所

「うめの香」 「たちばな倶楽部」

法人全体

【事業報告概要】

コロナ危機以来、施設各部門での慢性的人手不足による現場の疲弊と、管理体制の不安定さが継続してきた。事業本来の目標である質の良い安定的な介護サービスの提供を目指し令和7年度は、不安定要因を抱えながらもこれまで持ち越ししてきた課題に取り組むことができた。特に財務的な厳しさを認識しつつも、少しでも早く経営基盤を固めるべく、人的(採用・各研修の強化)、物的(業務合理化・環境整備)への投資を強く進めてきた。

また、外国人の介護職員を積極的に雇用し、すでに全職員の三割程度までに達している。現場の戦力として奮闘し、介護の職場ではなくてはならない存在になってきている。

令和8年度には、これら各方策の効果が現れてくるものと確信している。働く人たちの満足度を高め、職場定着率を上げ、雇用の安定を確保し、さらなる業務改善によって地域に信頼される高齢者福祉施設を目指し全力で取り組んでいく所存である。

【令和7年度における重点項目に対する評価】

	重点項目	評価
1.	サービスの質の確保	① 職員の質の向上 内部・外部研修への参加や日々の指導を通じて、介護技術及び接遇面の向上に努めた。今後も継続した人材育成を行っていく。 ② 質の高いサービスの提供（食事面・介護面・環境面） 利用者一人ひとりに応じた支援を行い、安心して生活できる環境整備に努めた。 ③ 自己研鑽できる環境づくり 研修資料の共有や情報提供を行い、職員が学びやすい環境づくりに努めた。 ④ 報告・連絡・相談の徹底 申し送りやカンファレンスを通じて情報共有を行い、多職種連携の強化に努めた。 ⑤ 利用者、家族との信頼関係の強化 利用者及び家族への丁寧な説明と対応を心掛け、信頼関係の構築に努めた。

2.	組織の強化 ・財務の強化	・各事業所の稼働率を上げるため、業務改善、生産性の向上推進、営業の強化など執行できる管理者の育成、確保を目標としたが、管理者人事については難航を極めた。次年度は外部登用も視野に入れ課題解決を図る。 ・毎期黒字決算を積み重ねていけるような取り組みについては人材確保とともに次年度に課題を残すこととなった。
3.	人材育成・雇用の安定	・令和5年2月より始まった外国人介護技能実習生受け入れ事業も令和7年度は2期生3名の受け入れをおこない、特定技能実習生も3名採用している。第1期技能実習生は令和8年度の第3期実習生を指導できるまでに成長している。 ・職員個々のスキルアップを図るために集合研修、社外研修の参加、教育支援、資格支援を継続して実施した。 ・令和7年度はみやのぎ荘の管理者変更等により多くの離職者を出すことになってしまった。管理職の人事も含めて職員が安心して働ける環境を整えることで、離職を防ぎ安定的な雇用を維持していけるよう取り組んでいく必要がある。
4.	職員採用	・中途採用は求人媒体を利用するも状況は厳しく、紹介会社に頼らざるを得ず、高い紹介料が発生してしまった。新規採用に関しては積極的な採用活動ができなかった。採用に關しての取り組みは次年度への持ち越しとなった。
5.	職員の処遇改善	① 令和7年度に補助金を活用し「見守りセンサー」「眠りスキャン」「介護ソフト」を導入することができた。このことによって介護現場の事務処理省力化、人手不足への対応、業務の効率化を積極的に進めていけるようになった。 ② ワークライフバランスへの取り組みとして、有給休暇取得率75%以上を掲げたが、人員不足によりシフトが思うように組めず達成することができなかった。 ③ 職員の健康面をも配慮して美味しくてバランスの良い食事を摂取できるよう給食業者を変更したことによって、職員の給食数も格段に増えた。 ④ 給与テーブル（職員等級）の見直しを図ったことにより、職員の賃金アップに繋がった。
6.	広報活動の強化	・ホームページの刷新及び施設を知っていただくための施設近隣への看板の設置は次年度持ち越しとなった。

7.	地域における取り組み	・地域交流については、利用者・家族・各種機関・地域の方等と運営会議や SNS 発信を利用して、情報交換や情報共有を密にとることができた。今後は、地域のためにできる取組みを模索、実施していく。
----	------------	---

【令和7年度 施設整備・修繕計画】

事業所	内容	備考
サニー秋桜	LED 照明設置工事	
きさらぎ荘・みやのぎ荘 うめの香・たちばな倶楽部	IOT・ICT 設備導入	見守りセンサー 眠りスキャン 介護ソフト「ほのぼの」
きさらぎ荘・みやのぎ荘 うめの香・たちばな倶楽部	指紋センサー	防犯管理
みやのぎ荘・たちばな倶楽部	外壁工事	
きさらぎ荘・うめの香	倉庫 職員休憩室	職場環境整備

ケアハウス サニー秋桜

【総括】

令和7年度において全館LED照明への切り替え工事を終了させることができました。過去5年間の黒字経営によって修繕資金の積み立てを重ねてこれでしたが今後、物価高騰や光熱費の上昇が続く中、利用料に制限があるケアハウスの経営は厳しくなっていくと思われます。しかし、創設から時間が経過した建物、配管、設備器具等の老朽化に備えて第二次大規模修繕への費用を捻出できるような盤石な経営体制を築いていかなければなりません。そのためには、安定した職員の雇用・人材確保・処遇改善が運営の鍵となると思われます。また、ケアハウスは単なる「終の棲家」から、地域包括ケアシステムの中で「自立支援」と「生活維持」を担う専門施設としての役割がさらに強まっていますので、それにこたえられるような施設づくりを進めていけるよう努めていきます。

I. 目標に対しての評価

① 年間稼働率 100%

☞ 令和7年度は入退所が10名と多い年であったが、随時見学の受付、待機者の確保等により当初目標の年間稼働率100%を達成できた。

② レクリエーションの充実・生活意欲向上への取り組み

☞ 週1回多目的室にて喫茶店をオープンし、入居者間の交流の場を提供してきた。趣味、情報交換の場として定期的に利用する方が増えた。また、季節の行事（かき氷・デザートバイキング・クリスマスカフェ等）も実施し、好評であった。

③ 介護・医療サービスへの連携

☞ 生活している中で、年齢を重ね介護が必要になるケースも多く、ケアマネジャー・サービス提供事業者・医療機関・ご家族に入居者の状況等を細目に情報提供し、迅速に介護・医療のサービスに繋げることができた。

II. 入居者利用状況

(1) 年間入退去者数

※月初既在者

7年度入居稼働率	入居者数	退去者数
100%	10人	10人

(1) 入院・事故報告他

事項	件数	備考
入院件数	18	大腿骨骨折・急性硬膜化血腫 他
救急搬送	4	肺炎・低酸素血症 他
事故報告書（千葉市）	4	
苦情に関する受付	4	入居者間トラブル
給食業務に係る事故報告	12	異物混入・提供ミス

(2) 介護・医療保険サービス別利用状況

サービスの種類	利用件数
訪問介護	12
訪問看護（訪問リハビリ含）	1
通所介護（デイサービス）	9
通所リハビリテーション	7
訪問診療	3
福祉用具貸与	12
計	44

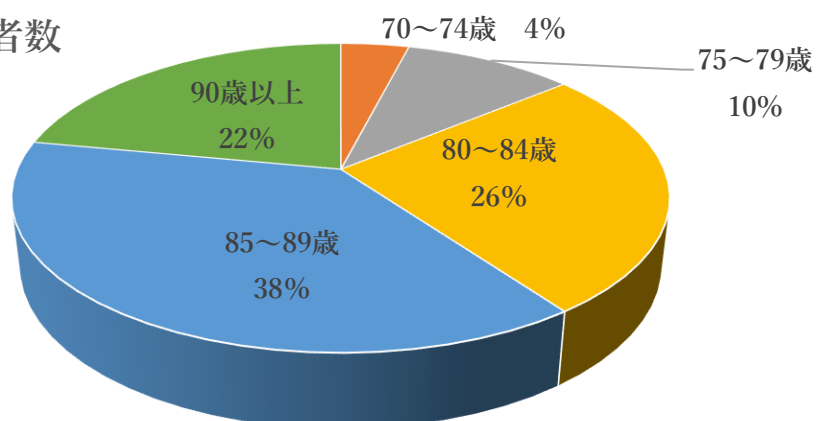
(3) 年齢別入居者数

年齢別	人数	比率
65～69 歳	0	0%
70～74 歳	2	4%
75～79 歳	5	10%
80～84 歳	13	26%
85～89 歳	19	38%
90 歳以上	11	22%
合計	50	100%
平均年齢	85	

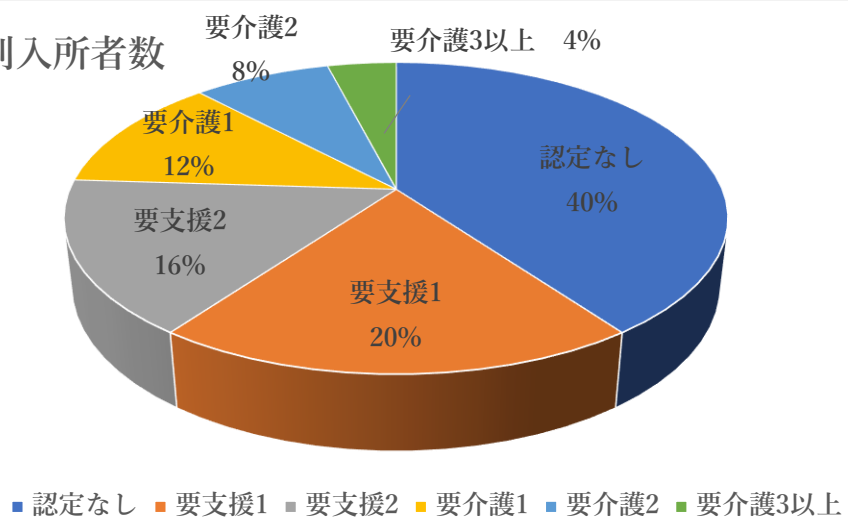
(4) 介護度別入居者数

	人数	比率
認定なし	20	40%
要支援 1	10	20%
要支援 2	8	16%
要介護 1	6	12%
要介護 2	4	8%
要介護 3	2	4%
合計	50	100%

年齢別入居者数



介護度別入所者数



令和8年3月31日現在

地域密着型介護老人福祉施設

(きさらぎ荘・みやのぎ荘)

【総括】

令和7年度においては、ICT活用による業務効率化及びサービス品質向上を目的として、きさらぎ・みやのぎ両事業所に「眠りSCAN」及び「ほのぼの介護ソフト」を導入した。「眠りSCAN」の活用により、利用者の睡眠状況や離床状況をリアルタイムで把握できる体制を整備し、夜間帯の安全確保や事故防止につなげることができた。必要なタイミングでのケア提供が可能となり、利用者の安心感向上及び職員の身体的・精神的負担軽減にも一定の効果が見られた。また、「ほのぼの介護ソフト」の活用により、記録業務や情報共有の効率化を図り、職員間での迅速かつ正確な情報連携につなげることができた。記録の電子化を進めることで、業務負担軽減とケアの質向上の両立を図り、利用者支援により多くの時間を充てる環境整備に努めた。

■ きさらぎ荘

地域に根ざした施設運営を目指し、地域住民及び関係機関との連携強化に努めた。地域交流や関係機関との協力体制を継続することで、地域ニーズに応じたサービス提供につなげることができた。利用者支援においては、個々の生活歴や身体状況に配慮し、利用者本位のケアを実践した。安心・安全な生活環境の維持に努め、利用者及び家族との信頼関係構築を図った。また、職員間の連携を重視し、申し送りや会議を通じた情報共有を行うことで、統一したケアの提供に努めた。今後も職員の専門性向上とサービスの質の向上に継続して取り組んでいく。

■ みやのぎ荘

地域との連携を意識しながら、地域密着型施設として利用者が安心して生活できる環境づくりに努めた。地域住民や関係機関との関わりを継続し、地域包括ケアの一員としての役割を果たすことができた。また、利用者一人ひとりの状態や意向に寄り添ったケアを実践し、個別性を重視した支援に努めた。健康管理や生活支援を通じ、安心して日常生活を送れる環境整備を行った。職員育成については、研修や日々の指導を通じて知識・技術向上を図り、情報共有を徹底することでチームケアの強化につなげた。今後もサービスの質向上に向け、継続した取り組みを行っていく。

I. 目標に対しての評価

① 地域との連携強化・地域に根ざした福祉サービスの提供

地域住民や関係機関との連携を図り、地域密着型施設として地域に根ざしたサービス提供に努めた。地域交流や地域包括ケアへの参加を通じ、地域ニーズに応じた支援を行うことができた。

② 利用者本位のケアの実現

利用者一人ひとりの意向や身体状況に配慮し、個別性を重視したケアの提供に努めた。日常生活支援や健康管理を通じ、安心して生活できる環境づくりを行った。

③ 職員の専門性を高め、チームワークを強化

研修や勉強会を実施し、職員の知識・技術向上に努めた。また、申し送りや情報共有を通じて職員間の連携強化を図り、統一したケアの提供につなげた。

Ⅱ. 入所者利用状況

(1) 年間延べ利用人数

	きさらぎ荘	みやのぎ荘
稼働率	98.0%	92.1%
年間延利用者数	10,382 人	9,753 人
入院及び空床件数	203 床	832 床
一日平均利用者数	28 人	27 人

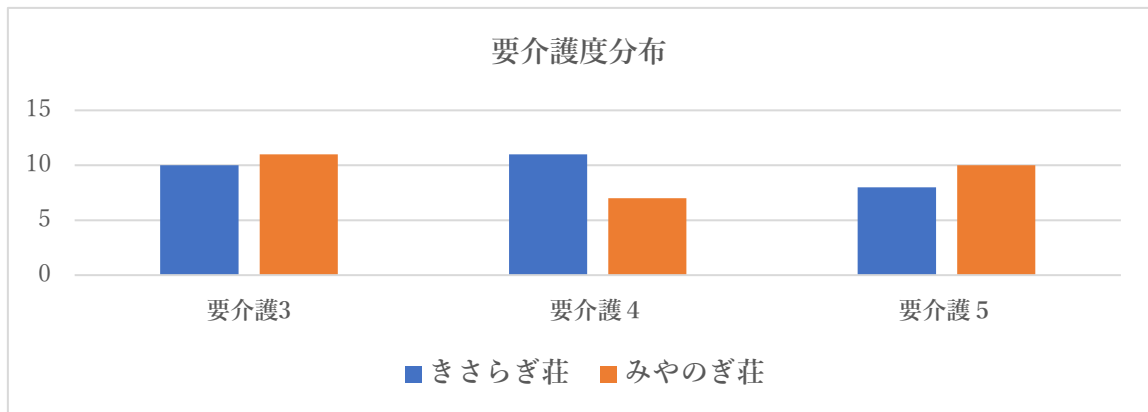
(2) 入退去者数

	きさらぎ荘	みやのぎ荘
退去者数	6 名	12 名
入居者数	7 名	12 名
入院件数	12 件	8 件
看取り件数	5 件	10 件

(3) 要介護度分布

(単位：人)

	要介護 3	要介護 4	要介護 5
きさらぎ荘	10	11	8
みやのぎ荘	11	7	10



III. 事故発生状況

(単位：件)

	きさらぎ荘		みやのぎ荘	
	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
転倒・転落	22	14	16	26
服薬関係	11	6	8	18
誤嚥	0	2	1	0
表皮剥離・外傷	8	19	6	30
ずれ落ち	0	0	0	0
施設離脱	4	0	2	0
その他	21	32	5	0
合計	66	73	38	74
ヒヤリハット	61	43	35	86

IV. 苦情報告

	件数	摘要
きさらぎ荘	0件	
みやのぎ荘	1件	利用料・介護給付に関する苦情

令和8年3月31日現在

小規模多機能型居宅介護事業所

(うめの香・たちばな倶楽部)

【総括】

■ うめの香

「通い（デイサービス）」「訪問（ヘルパー）」「泊まり（ショートステイ）」の3つのサービスを利用者の状況に合わせて柔軟に組み合わせたことにより、その人に合ったサービスを提供することができ、在宅での生活の継続に繋がった。定期的に行っている運営推進会議では地域の方や、他の小規模多機能型居宅介護事業所からの意見を運営にも反映できるように取り組んだ。今後も地域に開かれた事業所として努めていく。

■ たちばな倶楽部

地域包括支援センターからの緊急の依頼にも対応できるよう体制を整え、迅速かつ柔軟なサービスを提供し、地域の方の支援に努めた。利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて継続して包括的なケアの提供に取り組んでいく。

I. 目標に対しての評価

① 地域との共生・地域密着型のサービス提供

地域住民によるボランティアの催し物を開催。運営推進会議では情報交換・情報を共有し地域との連携を図った。「通い・訪問・宿泊」のサービスを柔軟に組み合わせ、地域との連携を図りサービスを提供した。

② 利用者一人ひとりに寄り添ったケアの提供

利用者一人ひとりの状況や要望に応じて柔軟なサービスを実施し、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるよう、顔なじみのスタッフが対応しサービスを提供した。

③ チームケアによる質の高いサービスの提供

専門職（介護支援専門員・看護師・介護職）地域包括支援センターと連携を図り、定期的に会議で情報を共有し、包括的なケアを提供した。

Ⅱ. 利用者状況

(1) 年間延べ利用人数

	うめの香	たちばな倶楽部
稼働率	88%	83%
平均利用者数	25.5 人	24.3 人
宿泊利用者数	月間平均 76 人/1 日 2.4 人	月間平均 113 人/1 日 3.7 人
デイ利用者数/1 日	10.1 人	11.9 人
訪問利用者数/1 日	8.3 人	8.8 人

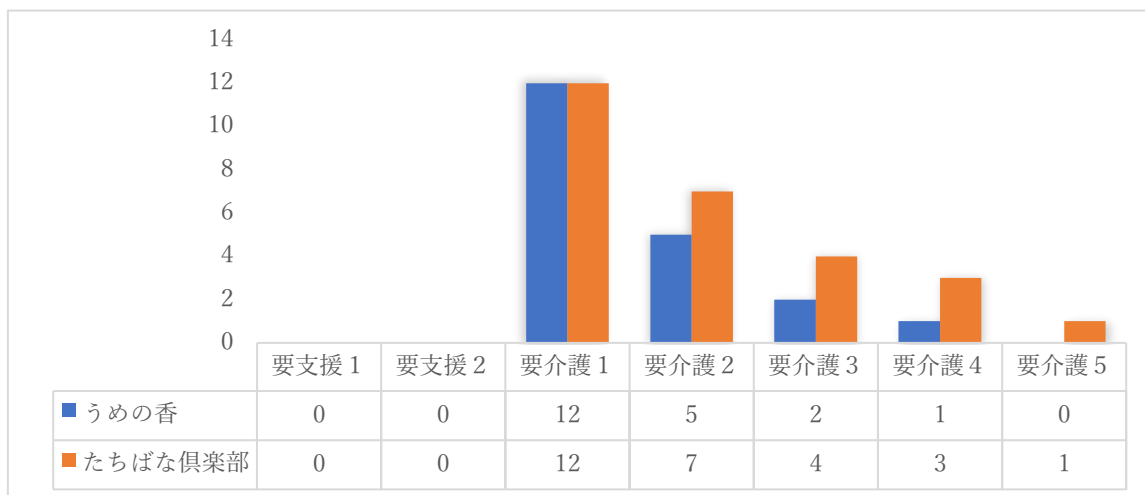
(2) サービス別利用割合

(単位%)

サービス区分	通い	訪問	宿泊	全体
うめの香	47	42	11	100
たちばな倶楽部	49	36	15	100

(3) 要支援・介護度別分布

(単位：人)



Ⅲ. 事故報告

(単位：件)

	うめの香		たちばな倶楽部	
	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 6 年度
転倒・転落	4	16	5	10
服薬関係	9	9	1	0
誤嚥	2	3	0	0
表皮剥離・外傷	4	4	2	1
ずれ落ち	0	0	1	0
施設離脱	1	3	0	0
その他	13	11	1	3
合計	33	46	10	14
ヒヤリハット	35	54	34	23

Ⅳ. 運営推進会議の開催報告

	うめの香	たちばな倶楽部
開催回数	4 回	4 回

令和 8 年 3 月 31 日現在